

【平成19年11月16日】

平成19年7月16日発生
新潟県中越沖地震

在住外国人に対する初期段階の 支援の状況

(財)新潟県国際交流協会

目次

- 1 ー 被害の状況
- 2 ー 柏崎市における在住外国人数
- 3 ー 支援体制と避難者数の推移
- 4 ー 柏崎災害多言語支援センターの設置
- 5 ー 避難所等の巡回
- 6 ー 配付チラシ・FM放送
- 7 ー チラシ・FM放送の翻訳体制と協力団体
- 8 ー センター協力団体・ボランティアの確保
- 9 ー 評価

1 被害の状況

新潟県災害対策本部
平成19年11月5日現在

区分	人的被害(人)		住家被害(棟)			
	死者	重軽傷者	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
新潟県計	14	2,315	1,259	850	4,630	34,003
(参考)中越大震災 (H 19.8.23現在)	68	4,795	3,175	2,166	11,642	103,854



倒壊した家屋

2 柏崎市における在住外国人人数

主な国別の在住者(平成19年7月末)

総計	アジア						ヨーロッパ	北米	南米	その他
		中国	韓国 朝鮮	フィリピン	タイ	その他				
844	799	437	69	145	91	37	12	13	23	17

人口(93,753人)に占める割合 0.90%(県平均 0.58%)

留学生数(平成19年月5月1日現在)

	新潟産業大学	新潟工科大学
総計	174	0
中国	166	0

3-1 支援体制と避難者数の推移(発生～2日目)

日	支援体制	在住外国人 避難者数	備考
7/16	<p>10:13ころ 地震発生(M6.8、震度6強～柏崎市ほか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市、協会:安否確認(携帯メール) ・長岡市国際交流センター:被災状況調査(オートバイ) ・県:地震情報をホームページで発信(英語) 外国人問い合わせ窓口設置(英、中、ハングル、露) ・県協会:ボランティア派遣待機、相談窓口(既設) 	人 106	<ul style="list-style-type: none"> ・市災対本部設置 ・県現地対策本部設置(8/10撤収)
17	<p>現地及び長岡市で関係者が打合せし、支援方針(1) と役割分担(下記)を決定</p> <p>市観光交流課、柏崎地域国際化協会(報道対応) 県国際課(支援活動の総括) 、 県国際交流協会(翻訳、県内ボランティア派遣) 長岡市国際交流課、長岡市国際交流センター (現地全体とりまとめ) JICA長岡デスク(現地ボランティアコーディネート) 多文化共生センター大阪 (県外ボランティア連絡・調整)</p> <p>FMによる多言語放送開始</p>	107	<p>1</p> <p>県の総括の下で関係団体が協働して支援</p> <p>ア.多言語チラシ配付 イ.FM放送 ウ.ボランティア派遣</p>

3-2 支援体制と避難者数の推移(3日目～2週間)

日	支援体制	在住外国人 避難者数	備考
7/18	市民プラザ内に「柏崎災害多言語支援センター」設置 ・中越大震災の資料の持ち込み ・配付ラジオの準備 ・翻訳依頼団体の調整 ボランティアの参加	人 45	電気復旧
19	避難所巡回開始	48	
22-31	外国語新聞配布(英字)		7/26 仮設入居受付開始
31	センター閉所(市協会・市・県・県協会に引き継ぐ) ・ライフラインがほぼ復旧し、避難所巡回の必要性が希薄になった(余震も少なくなった) ・翻訳は県協会が引続き担当	10	7/31 水道はほぼ全域で復旧(8/4完全復旧) 8/ 1 市の被災者相談所開設
8/ 3	FMによる多言語放送終了		8/13 仮設入居開始
15		0	8/27 ガス全面復旧 8/31 避難所解消

4 柏崎災害多言語支援センターの設置

<p>目 的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の提供 ・災害状況・ニーズの把握 ・個別ケア
<p>具 体 的 業 務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の巡回 ・企業・大学・外国人店舗の訪問 ・チラシ作成配付、FM放送原稿作成 ・緊急物資配付 ・相談
<p>組織体制</p>	<p>現地ボランティアコーディネータ 1～2人</p> <p>相談員 1～3人</p> <p>巡回員 ピーク時15人程度</p> <p>提供情報原稿作成・記録 2～3人</p> <p>柏崎市・市協会 1～2人</p> <p>その他 2～3人</p>

4 - 2 センターの1日のスケジュール

- 9:00 朝ミーティング
- 11:00 翻訳依頼情報の選別と原稿作成
(随時) 緊急情報の翻訳
新ボランティアに対するブリーフィング
- 15:00 ~ 巡回前ミーティング
- 16:30 ~ 巡回
巡回レポート作成
- 21:00 夜ミーティング

(支援センターのミーティング)



5 避難所等の巡回

内 容	<ul style="list-style-type: none">・情報提供と収集(チラシ配付、玄関等貼付・張り替え)・被災者のニーズ把握・ケア・物資配付
聞き取り 項目 (個人カルテ)	<ul style="list-style-type: none">・国籍 ・氏名 ・年齢 ・仕事先 ・家族・居住地 ・言語(レベル) ・避難先履歴・知合いの状況・困っていること(例。妊娠中、おむつ欲しい)
人員体制	相談員、巡回員(3~4名)
巡回員服装	ガムテープを貼付(名前、可能言語明記)
配慮事項	<ul style="list-style-type: none">・深く立ち入らず、相手が話してくるのを待つ・母語による会話・マスコミの立会いは控える

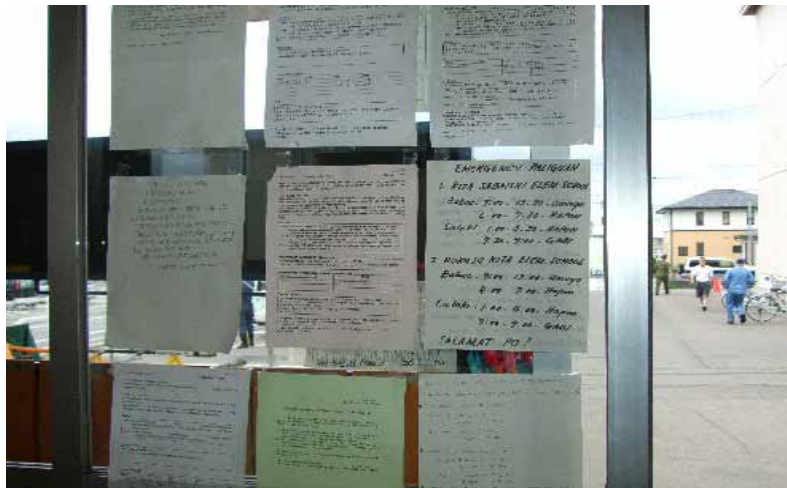
避難所ごとの「個人カルテ」



避難所巡回の様子 (胸、背中にガムテープ)



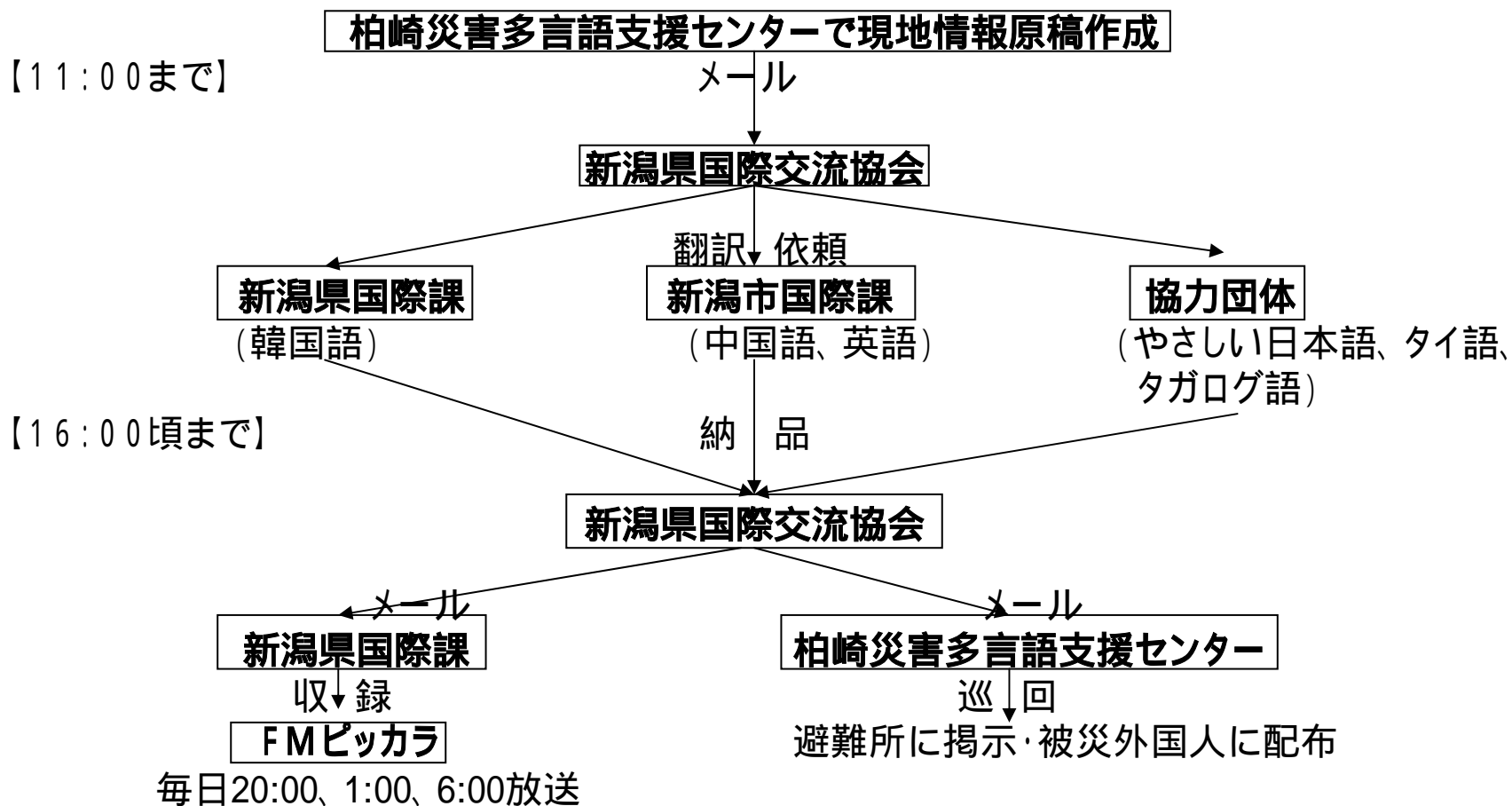
避難所の掲示



6 配付チラシ・FM放送

	掲示・配付チラシ	F M 放送
言語の種類	英・中・ハンゲル タガログ・タイ 露(途中で中止) 日本語	(当初:中、やさしい日本語のみ) 英・中・ハンゲル タガログ・タイ やさしい日本語
主な提供情報 (時間の経過により変化)	地震情報・被害状況・支援センターの周知 入管特別措置 ライフライン(電気、ガス、水道、交通) 生活情報(ゴミ収集、入浴時間、保育相談、食中毒・熱中症) 証明等(建物危険度判定、罹災証明、仮設住宅申請) 放射能監視情報	
その他		旧西山町区域を臨時に認可を得て放送

7 チラシ・FM放送の翻訳体制



7-2 翻訳協力団体

団 体 名	翻訳依頼言語
フィリピン共和国大使館(労働部)	タガログ語
(特活)多言語センターFACIL	やさしい日本語、 タガログ語、タイ語
武蔵野市国際交流協会	やさしい日本語、 タガログ語、タイ語
(財)茨城県国際交流協会	タガログ語、タイ語
(財)長野県国際交流推進協会	タガログ語、タイ語
(特活)AMDA国際医療情報センター	タガログ語、タイ語
(財)名古屋国際センター	タガログ語
(財)浜松国際交流協会	タガログ語
トヤマ・ヤポニカ	やさしい日本語

8 センター運営協力団体

<p>全 体 コーディネート</p>	<p>7/18～25 JICA長岡デスク・長岡市国際交流センター・ 新潟県国際交流協会元相談員・JICA新潟デスク・ 多文化共生センター大阪・東京</p> <p>7/25～31 市協会・市</p>
<p>提供情報原稿 作成・記録(IT)</p>	<p>JICAボランティア</p>
<p>F M 放 送</p>	<p>FMピッカラ(柏崎市)・FMわいわい(神戸市)</p>
<p>相 談 員</p>	<p>新潟県国際交流協会が元相談員等を派遣</p>
<p>避難所巡回・ その他 (31団体)</p>	<p>自治体国際化協会・(国際協力機構) 宮城県・富山県・滋賀県・山梨県国際交流協会・とやま国際センター 愛知県国際交流協会・和歌山県国際交流協会・徳島県国際交流協会 船橋市・越谷市・浜松市・西宮市 仙台国際交流協会・横須賀市国際交流協会・富山市民国際交流協会 名古屋国際センター・京都市国際交流協会・大阪国際交流センター 多文化共生センター大阪・東京 ・地球市民交流会・高田カトリック教会 新潟県・新潟市・長岡市・新発田市 新潟県国際交流協会・長岡市国際交流センター・上越国際交流協会</p>

8-2 ボランティアの確保方法

約70名(7月31日まで)

呼びかけ団体	主な業務	依 頼 先
多文化共生 センター (7/16)	巡回	実践者会議メーリングリスト 「多文化共生マネジャー養成コース」修了生
	翻訳	翻訳可能団体
自治体国際化 協会 (7/20)	巡回	全国の地域国際化協会
(国際協力機構) (7/17)	原稿作成・ 記録	JICAボランティア
県と県協会 (7/22)	巡回	県内自治体(新潟市、新発田市、十日町市)
県協会 (7/17)	相談・巡回 翻訳	県内民間団体、県協会登録ボランティア、 県費留学生、JICAボランティア(OB)

9 評価 良かったこと

□ 初動体制(現地確認、支援方針決定)が早かった

・中越大震災の経験と反省(県・県協会・長岡Cの迅速な立ち上がり)

□ 中越大震災の災害支援体制(長岡方式)を活用

・個人カルテ、巡回レポート作成 ・FM放送による情報提供 ・携帯ラジオ配布

□ 関係団体の協力が円滑に得られた

・ネットワークの存在 ・協力申し入れ多数あり、特に翻訳作業の分散化

□ ニーズは概ね対応できたし、トラブルはみられなかった

・日頃から市協会と在住外国人・企業・大学等との間に顔の見える信頼関係あり

□ 災害発生時の避難は特に問題なかった

・日本語を話せる人が多かった(留学生や日本人家族あり)

□ その他

・支援体制をセンターに一元化したこと
・個人ボランティアを受入れなかったこと

9-2 評価 課題

□ マニュアルの整備

広域的支援体制の仕組み(災害の態様、規模、時系列別に)
支援センターの組織、命令系統、業務内容、運営方法
個別ノウハウ

(情報提供、巡回、所在確認、ボランティア派遣、交通手段の確保)
翻訳体制と依頼可能団体のリストアップ

□ ボランティアを的確にアレンジできる能力養成

ミスマッチ回避(的確なニーズ把握と派遣要請)。相互に顔の見える信頼関係

□ 県内自治体・協会の相互支援システムと人材の育成・登録


殆ど県外団体に頼らざるをえなかった(センター本部、少数言語の翻訳)

□ 「災害時多言語情報作成ツール」の活用訓練

殆ど使わなかった。市町村等への使い方の説明が必要

□ 在住外国人との信頼関係の確立と所在確認

- ・平常時から在住外国人と顔の見える交流
- ・個人情報保護と両立する台帳等の作成 など



**全国、海外の多くの方々から
いただいた暖かいご支援に
感謝いたします**